

# 一中校区の施設一体型小中一貫校 「小中別の整備」への見直しならず



## 山本市長が「小中別の整備」の公約断念

3月議会の最終日、山本市長は、一中校区の学校整備について、公約である「施設一体型小中一貫校でなく、小中別の整備」を断念すると表明しました。今後、施設一体型小中一貫校をベースに、グラウンドの拡張など課題をできる限り解消していく、としています。

## 議会がハードルに

すでに議決・契約している施設一体型小中一貫校の建設工事を「小中別の整備」に変更するためには、議会の議決が必要です。

しかし議会は、施設一体型小中一貫校をすすめてきた議員が多数で、市長選挙後も、「小中別の整備」への変更に賛成する議員は少数（日本共産党3名と松村議員）の状況が続きました。

3月議会初日、市民から「一中校区の施設一体型小中一貫校を見直し、小中別々に整備することを求める請願」が出されましたが、委員会での審議すらせずに、議会の多数は否決しました。



## 「小中別々の整備を求める請願」への賛否

共産			維新			市民		公明			(自民)		
血海	藤田	北尾	白口	岡田	伊崎	野口	久畠	三浦	友井	中谷	松本	片岡	松村
○	○	○	×	×	×	×	×	欠席	議長	×	欠席	×	○

## 公約への市長の姿勢は？

議会の議決が得られなければ計画変更が実現できないことは事実です。しかし、今回、山本市長は「小中別の整備への計画変更」を議会に提案する前に、公約実現は難しいと判断し、新年度予算案に、施設一体型小中一貫校の建設予算をそのまま計上しました。

本来であれば、議会に正式に、「小中別の整備」にむけた議案を提案したうえで、判断すべきだったのではないのでしょうか。公約に対する説明責任が求められます。

## 日本共産党は予算修正案を提出

日本共産党は、2023年度予算案について、小中一貫校建設の予算は認められないため、①施設一体型小中一貫校建設の予算を削除し、②新しい学校は小学校統合校として基本設計をやりなおす**予算修正案**を提案しました。

しかし、修正案は、賛成少数（賛成4、反対8、退席1）で否決されました。

## 日本共産党 2023年度予算には賛成

2023年度予算全体としては、市民のニーズにこたえる多くの事業が盛り込まれています（表面参照）。また、市役所は移転でなく耐震化、放課後児童会の民間委託の中止など、前市政からの大きな転換もみられます。

日本共産党は、修正案が否決されたため、「小中一貫校整備にあたり、保護者から出た疑問や改善点に真摯にむきあい、学校環境の向上に努めること」などを市に求める附帯決議（可決）をつけたうえで、新規事業の実施をすすめるため、最終的に予算原案に賛成しました。

## これからも、よりよい教育環境をもとめて

一中校区の施設一体型小中一貫校について、日本共産党市会議員団は、市民・保護者のみなさんと一緒に、「小・中それぞれが、のびのび学べる学校に」と、住民投票を求める署名運動や議会論戦に全力であたってきました。

結果として「小中別の整備」が実現しないことは大変残念ですが、ひきつづき、より良い教育環境をもとめてがんばります。



**日本共産党  
市会議員団**

  
 さらがいふみ

  
 藤田 まり

  
 北尾 まなぶ

QRコード  


**市民アンケート実施中！ QRコードからも**

### 日本共産党の一般質問から

#### ●新たなバス運行、京阪バス削減地域の対応について

市は新年度、交通不便地域のバス試行運行にむけ、事業者や住民も参加する「地域公共交通会議」での検討を開始します。

日本共産党は、京阪バスの便数が大幅に減った地域の対応などを、市が事業者と協議するよう求めました。市は「地域の声を受け止め、バス事業者と協議を進める」と答弁しました。

#### ●就学援助の拡充を

学校の制服代、上靴や絵の具など学用品の負担が重いため、就学援助制度の対象拡大や増額を要望しました。

#### ●保育士の配置を手厚く

国基準の保育士配置は少なすぎます。1歳児6人対保育士1人を、5対1にするなど、市独自の対応を要望しました。



#### ●三中校区の学校配置は？

3つの小学校（星田・旭・妙見坂）と第三中学校を将来的に統合し、小中一貫校とする方向性について、山本市長が見直す考えを示しました。

市長は、一中校区で小学校と中学校を施設一体にすることに疑問の声が多いため、三中校区では「施設一体型の小中一貫校は好ましくないと考えている」と答弁しました。